



Metro
Edmonton
Japanese
Community
School

コミュニティースクールニュース 2010年11月号

THE ASSOCIATION OF METRO EDMONTON JAPANESE COMMUNITY SCHOOL

代表者 守田幸男 (会長) 9443 Ottewell Road, Edmonton AB T6B 2E1 TEL: 780-466-3278

借用校舎 RICHARD SECORD SCHOOL 4025-117 St

URL: <http://www.ualberta.ca/~tkin/MEJCS-index.htm>

<校長からのメッセージ>

11月にして突然のそしてあまりの厳しい寒さに、改めてエドモントンの魅力?を再確認しました。週末や仕事早く終わったときは、野球とバスケットをしている二人の息子の相手をしているのですが、外での活動は来年の春までお預けになりそうです。

しかしながらエドモントンはウィンタースポーツが盛んです。スキーやスノーボード、スケートなどこれからの季節ならではの活動を楽しんで、長い冬を満喫しましょう。と、偉そうに言ってますが、私は、九州(福岡/博多)で生まれ育っていますので、かろうじてスノーボードに乗れる(できるではなく乗れるです。しかもほとんどまがれない)、スケート靴で氷の上を歩けるくらいでウィンタースポーツは全然だめなんですけどね。

さて、クラス一致団結して臨んだ学芸会は、どうでしたでしょうか。このひと月ほどの学校全体で一つのものに取り組むという雰囲気は、毎年確実にその年の補習校生活を濃く彩っていきます。今受け持っている年長組に練習の過程において、...「まだまだ集中力が続かない時期の子どもたち16人にとって一緒にまとまって物事に取り組むということはなかなか難しいことです。しかしながら、最初こそは(ステージ上)では、落ち着きのない子どもたちでしたが、後半には、「学芸会の練習」とはどういうものか理解でき、結構まとまって頑張っていました。セリフを覚えたり、そのセリフを大きな声で言ったり、自分のセリフを言うためにしっかり他のお友達のせりふを聞くようにしたり、または立ち位置を覚えたりと、普段できないことに一生懸命取り組むことは、この子どもたちにとって大きな経験になるんだろうな。とても大きなそして良い学習プロジェクトなのだとな一生懸命練習する子どもたちを見てそう思いました。練習だけでも学芸会をするという意味は大アリなのだ(まあ毎年のことですが)納得したりしています。」...とメールをいたしました。これはどの低学年の担任も同じような思いでいたと思っています。また、集中力が出てくる上級生の子どもたちにとって、学芸会もしくはその練習をやさしく感じているかと言えばそうではありません。学年が上に上がれば上がるほど残念ながら日本語よりも英語が使いやすくなっている補習校の現状を考えれば、こうやって日本語で劇をするということは大きな効果があると思っています。もし、私が、英語の劇に出てくださと言われていたら、間違いなく躊躇するでしょう。補習校の生徒たちは、日本語が母国語である私を含めた多くの保護者が思うよりも多くのプレッシャーの中で、私たちが思っているよりはるかに多くの努力をし、学芸会に臨んでいると言えると思います。このニュース

レターを読むころには、みなさん、ほっとして、そして誇らしく学芸会のことを思い出していることでしょう。

さて、12月は、3回しかありませんが、個人面談が行われます。毎年のことながら、とても重要なことですので、改めてお話しさせていただきます。補習校は、進級に関しての判断の基準というものがあります。昨年の私の原稿からの繰り返しですが、今年もここで補習校の進級の基準を紹介いたします。教師会は進級の判断を本校の「指導目標」に従っています。「単元テストが60%以上できる」はこの学年も変わらない目安です。そのほかにも「授業で使われる日本語が支障なく聞ける」、「教科書の単元を音読して理解できる」、「単元で出た漢字を読める」、「学年相応の作文が書ける」、「毎週の宿題をしっかりとやって、必ず提出する」、ことなどが、進級の条件となっています。これらは各学年によって少し判断基準が違います。本校のウェブサイトはその基準が詳しく載っていますのでこれを機会に詳しく御存じではない方はご参考にしてください。

<指導目標 <http://www.ualberta.ca/~tkin/MEJCS-13.htm>> 以上のことを踏まえたうえで、この個人面談はお子様の補習校での進級を担任と話し合う良い機会だととらえてください。そして担任の意見を最大限に尊重していただき、お子様/生徒にとって「日本語を学ぶ」という最適な場所の提供を模索していきましょう。その中で、もう一年繰り返した方が、つまり『ゆっくりコース』が良いのではという提案があるかもしれません。それは、その生徒にとって「日本語の力を着実に身につけていこう」という究極のゴールのためにはそれが近道なのかもしれないのです。この「ゆっくりコース」を選択した場合でも確実にその成果が表れていることを併せてお知らせいたします。昨年も述べましたが、保護者と教師がコミュニケーションをとることは「家庭と学校が一緒になって生徒の日本語の勉強をすすめる」という大前提においてもっとも大切なことだとおもわれます。ぜひこの個人面談の機会を利用して、いろいろお話をさせていただきます。ただしこの話し合いは、12月の時点での話し合いですので、まだたくさんがんばれる三学期を残しています。この話し合いをきっかけに三学期をどう有効に過ごしていくか、そしてその年度末には、無理のない進級、意味のある進級を考えていただくようよろしくお願いいたします。不明な点などありましたらいつでも担任、私にご連絡ください。

さて、最後になりますが、二点お願い/注意があります。まずは、学校の使用についてです。先月のニュ

ースレーターではこの部分が手違いで抜けていたからでしょうか、学芸会の練習で忙しくなっていたからでしょうか、学校の使い方について再三 Richard Secord 小学校から、注意うけました。今一度、以下の学校の使い方を確認し、みなで大切に学校を使用いたしましょう。

<借用上の留意点・使い方の決まり

<http://www.ualberta.ca/~tkin/MEJCS-06.htm>>

また、年中、年長、一年生などのクラスの保護者は、必ずクラス終了後、教室に入り、忘れ物がないか、靴は戻されているか、ごみは落ちてないかなどの確認をすることを徹底されてください。あまり言いたくはないのですが、RS校の方から使用を断られたりすることはいつでも起きうることなのです。皆様よろしくお願ひします。もう一つは、校内での日本語使用推奨についてです。教室では、日本語のみということ、かなりの確率で守られているのですが、これを休み時間など、校内にいる間はそうできるように頑張っていきたいと思います。

二学期最後の月です。寒さに負けず、充実した補習校生活を送り、2010年の最後を有終の美で飾りましょう！

校長 坂口 宗 (はじめ)

<会長からのメッセージ>

先週末は寒かったっすね～！-30℃とかになると寒いを通り越して、車の調子とか家の配管とかが心配になります。去年、極寒の日の丑三つ時に、地下室の水道管が破裂して洪水状態になり大騒ぎしたのを思い出しました。この冬は、これ以上極寒の日がこなかったらいいな。。などと破廉恥ながら地球の温暖化に期待をかけてしまいます。ツバルの皆さんごめんなさい。

業務連絡を一つ。当校では、教師&代理教師&教師補助のボランティアを随時募集しております。教師&代教には謝礼が支払われます。生徒数が増加中の今、教師の人材確保は当校の最重要課題の一つです。自身でなくても知人に興味がありそうな方や適しそうな人がいらっしやいましたら、是非声をかけてみて下さい。応募や問い合わせは、坂口校長

(sakaguchisensei@hotmail.com)宛てか、もしくは私宛てにお願いします。質問は学校で、私や役員に聞いて頂いても結構です。いつでも気軽に声をかけて下さい。

さて、明日の土曜日はいよいよ学芸会です。最初の準備から最後の後片付けまで、皆さんの協力を宜しくお願ひします。そしてみんなで楽しみましょう。

会長 守田 幸男

<保護者便り>

こんにちは、佐藤美紀です。

我が家には4人の子供がいます。その中の3人が小学一年生、年中、プレスクールと日本人学校でお世話になっています。

私達は昨年6月に夫の仕事でエドモントンに来ました。滞在予定は2年弱でしたので、私はこの期間に子供

達に少しでも英語を覚えて欲しいと考えていました。また、一番下の子の出産もあり日本人学校に通わせることなど考えずに一年が過ぎていました。

今年の5月に主人が、日本人学校があるという情報を得て子供達に話をしました。子供達は、「行きたい！」との即答。すぐに学校に連絡して6月から日本人学校へ入学させていただきました。

子供達は学校にもすぐに慣れ、楽しそうに勉強をしている姿、学校の話を楽しそうにしてくれる姿を目にして私は気づきました。

同じ言葉が通じる「友達の大切さ」友達と一緒に勉強をする楽しさ。学校では勉強以外に、もっと大切な「コミュニケーション」人とかかわる事を学ぶことができました。今、彼らにとって金曜日の数時間はとても大切な時間となりました。私自身も学校で沢山の母国語で話をする事により、今までなかった心の充実感を得ることができています。日本人学校とは日本語を子供に勉

強させる場所だと思っていたのですが彼らにとってはただ勉強だけをするところではなかったのです。

私は人と人を結ぶ言葉の大切さを改めて感じさせられた気がします。そして、学校に通っている子供達がなぜ英語のほかに日本語を学んでいるのか、人と人(親と子)を結ぶために必要なことなのではと感じました。

学校は英語を普通に話す子供達にとって、辛いと思えないかもしれません。しかしその努力がいつしか自分のものになることを忘れないで欲しいと思います。人と人とのつながりが大きくなるように・・・

後、数ヶ月で帰国となりますがこの期間に学んだことを今後も忘れずにいたいと思います。

佐藤 美紀

今日は11月12日午後3時。たーちゃん(主人)は日本、タイラーは学校、犬のトフィーちゃんは昼ね。今しかない、こんなに静かな時間は！！と思ひながら、そして学芸会が無事楽しく終わっている事を、願ひながら便りを書かせてもらいます。初めまして、朝居由紀子と申します。小1の息子タイラーがプレスクールの時からお世話になっています。ところで、皆さんの将来の夢は、何ですか？タイラーの将来の夢は、オイラーズのホッケー選手になる事です。理由は、「俺が入れば、必ず勝てる！！」からだそうです。夢は大きく、というのは本当ですね。彼の瞳は、キラキラしています。今年の1月にスキーで足を骨折するまでは、「一番早いスキー選手」でした。去年までは、バイクにはまり、「マウンテンポリスになるんだー！！」

(マウンテンバイクに乗った警察官の事を、彼は勝手にこう呼びます。) そんな彼が最近スポーツ以外に興味を示してくれるのが、一年生から習い始めた漢字です。TYLER JOH ASAI が、彼の正式な名前です。ミドルネームの「じょう」は漢字で「貞」と書きます。この漢字には、「素直に、正しく」と言う主人の願ひが込められています。そんな彼が「僕のミドルネーム

は漢字なんだよー」と地元の友達の前で誇らしげに書いている漢字を見て、嬉しく思いました。カナダで生まれ、カナダで育つ日系カナダ人として、「僕は日系カナダ人で、オイラーズの選手です！！」と言える日がいつかくるかも～～？と親ばか丸出しで、かれの夢を、時々自分自身にもブレーキをかけながら、応援していきたくです。私の幼いころの夢は、結婚して、子供を産み、犬を飼うことでしたことでした。夢は叶いました。私には3人の子供がいます。そして今の夢は、9歳になる犬のトフィーちゃんをセラピードッグにすることです。皆さん、今の夢は、何ですか？

朝居由紀子

11月、日本語学校と言えば、学芸会、学芸会、学芸会！！

自宅での学習も台本の音読、暗記に続き、舞台本番でのイメージトレーニング（?!）などなど我が家も学芸会モードONです。

、、、と、偉そうなことを言っておりますが、一年生の長男はプレイス쿨を含めると4度目の学芸会。毎年なかなかセリフが覚えられず、それどころかすらすら読めず、“あーお願いだからがんばってー！！”こっちは悲鳴を上げたくります。

私の通っていた小学校には学芸会は存在しませんでした。

“演劇の発表”として強く印象に残っているのは、確か四年生か五年生(?)の国語の教科書に出てくる狂言“附子”(ぶす)。

授業の最後に発表会があり、二人一組で太郎冠者、次郎冠者を演じるというものでしたが、これが日本の伝統文化を重んじる奈良の市立小学校ではかなり本格的で、体育館の舞台の上で衣裳(袴らしきもの)をまとい、扇や壺といった小道具まで揃えられていたの思い出します。

狂言と言えは14世紀(室町時代)の演劇。そのセリフを暗記して表現すること、考えてみますと小学生には少し高度ではないでしょうか？

私は幼いころから恥ずかしがり屋なほうで、クラスでの発表は大の苦手、聞いただけでも緊張してしまうタイプでした。

発表会のことを母に知らせると、本番までの数日間、母は私の練習に熱心に付き添ってくれました。長年、能楽に精通していた彼女の指導は本格的なものもありました。

普段は仕事ばかりで、宿題はもちろん、学校行事さえ祖父にまかせっきりだった母が唯一協力してくれた狂言の発表会。私には特別な意味がありました。

学芸会が終われば今年も残り一カ月。そしてまたエドモントンに極寒が訪れます。

時節柄、皆さまどうぞご自愛ください。

黄まゆみ

<ボランティア募集>

会則と校則の整理、ストラテジックプランニング、奨学金コミテイーに協力してくださるボランティアの方を募集しています。詳細は後日発表します。興味のある方はブルースさんまでお知らせください。

bruce@interbaun.com

<12月と1月の当番

/Parent Duty shifts Oct/Nov>

12月3日	安田	田中
10日	ソイヤ	飯田
17日	大場	慈田
1月7日	松原	森下
14日	ウォン(黒木)	四宮
21日	ランドリー	栗林
28日	ジャクソン	ウォーカー

<ニュースレターについて>

ニュースレターへの記事の掲載をご希望の方は、担当の山本(naoko2158@shaw.ca)までご連絡下さい。投稿の締切りは第3金曜日、発行は第4週です。

スクールニュース校正 アデイソン千恵子
編集 山本 奈穂子

